（試験研究課題年次別解説集様式３号：完了課題用）

資源添加率向上技術開発研究(マダイ)

（予算区分　県行政　研究期間　平成 20～27 年度　）

担当：水産技術研究所伊豆分場　野田浩之

【研究の背景とねらい】

沿岸資源を持続的に利用するために、県内各地でマダイ等有用種の放流事業が行われています。放流事業の定着には、放流効果をさらに向上させる技術開発と普及が必要です。マダイ稚魚の放流適地は一般には水深が 10m 以浅で底質が砂場とされていますが、地先により環境条件が異なるため放流適地の条件は一概には言い切れません。本研究では、放流種苗の資源添加率を向上させるために放流場所として港内に着目し、港内への放流条件を明らかにするとともに、港内放流指針を作成し、放流技術の定着化を図ります。

【研究成果】

・伊東マリンタウン港（伊東市）、稲取漁港（東伊豆町）、外浦漁港（下田市）、久料幼稚仔保育場（沼津市地先）にて、適地放流による効果の指標と考えられる「放流マダイの群れ形成や行動等」を観察し、以下の知見を得ました。

・伊東マリンタウン港、稲取漁港および外浦漁港では放流後、成長が確認でき、水温の低下とともに港外に逸散するため観察尾数が減少しました。

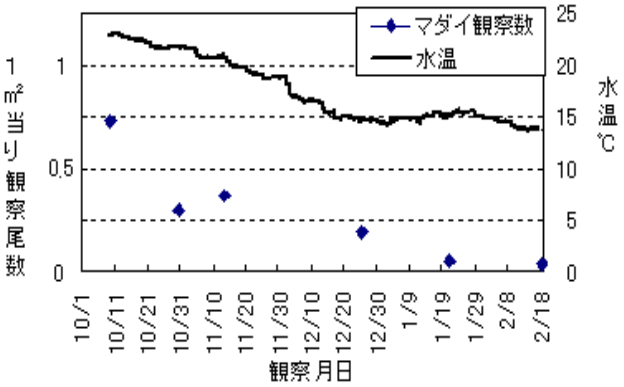

図１　放流後の水温と観察尾数の推移

・単独・急停止や他の個体を威嚇する縄張り様の行動など環境への順応を示す行動が観察されました。

・砂泥底中からはゴカイ類、ヨコエビ類等の餌料生物が確認されました。

・このことから小規模港はマダイ放流の適地と考えられました。

・久料幼稚仔保育場では音響給餌いかだの周囲で大量に滞留しているのが観察されました。

図２　港内放流後５ヶ月間滞留したマダイ

【研究成果の普及方法】

今後、環境収容量に基づく、適正な放流尾数と管理手法を定めた港内放流指針を作成し、地域栽培漁業推進協議会などを通じて普及することで、遊漁による釣獲の影響が少ない場所での港内放流を推進します。

（作成　平成 28 年 3 月）